

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成24年10月11日 (2012.10.11)

【公開番号】特開2012-63042(P2012-63042A)

【公開日】平成24年3月29日 (2012.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2012-013

【出願番号】特願2010-205308(P2010-205308)

【国際特許分類】

F 2 5 D 23/06 (2006.01)

F 2 5 D 19/00 (2006.01)

【F I】

F 2 5 D 23/06 W

F 2 5 D 19/00 5 1 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月24日 (2012.8.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外郭の外箱を成す側面板に 1 8 0 m m ~ 2 2 0 m m ピッチで設けられ、冷凍サイクルの冷媒が通流する放熱パイプと、

ドアに対向する前記外箱の外板であるフランジ部近くの前記放熱パイプを覆う端部凹所が、外方が開放されたへこんだ形状をもって縁部に沿って設けられるとともに、前記フランジ部近くの放熱パイプに隣り合う前記放熱パイプを覆う凹所がへこんだ形状をもって設けられる真空断熱材とを

備えることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項 2】

前記端部凹所内に配設される前記放熱パイプの中心と前記フランジ部との間の距離を 4 0 m m ~ 7 0 m m とした

ことを特徴とする請求項 1 記載の冷蔵庫。

【請求項 3】

前記真空断熱材は、前記フランジ部の裏側に形成され貯蔵物を収容する内箱の一部に係止する内箱係止部と前記真空断熱材の端部凹所の先端部との間の距離が、1 0 m m 以上隔離するように設けられ、

前記端部凹所の短手方向の幅寸法を 4 0 ~ 6 0 m m とした

ことを特徴とする請求項 1 記載の冷蔵庫

【請求項 4】

外郭の外箱を成す背面板に 1 8 0 m m ~ 2 2 0 m m ピッチで設けられ、冷凍サイクルの冷媒が通流する放熱パイプと、

前記背面板の端縁側に配置される前記放熱パイプを覆う端部凹所が、外方が開放されたへこんだ形状をもって縁部に沿って設けられるとともに、前記端縁側の放熱パイプより中央側の前記放熱パイプを覆う凹所がへこんだ形状をもって設けられる真空断熱材とを

備えることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項 5】

外郭の外箱を成す背面板に 1 8 0 m m ~ 2 2 0 m m ピッチで設けられ、冷凍サイクルの

冷媒が通流する放熱パイプと、

前記背面板の端縁側に配置される前記放熱パイプを覆い前方に向け屈曲する端縁屈曲部が縁部に沿って設けられるとともに、前記端縁側の放熱パイプより中央側の前記放熱パイプを覆う凹所がへこんだ形状をもって設けられる真空断熱材とを備えることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項 6】

外方が開放されたへこんだ形状をもって縁部に沿って設けられる端部凹所と、前記端部凹所より中央側にへこんだ形状をもって設けられる凹所とを有することを特徴とする真空断熱材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

第 4 の本発明に関わる真空断熱材は、外方が開放されたへこんだ形状をもって縁部に沿って設けられる端部凹所と、前記端部凹所より中央側にへこんだ形状をもって設けられる凹所とを有している。